

# 国立大学法人浜松医科大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

浜松医科大学は、優れた臨床医と独創力に富む研究者の養成、独創的研究及び新しい医療技術の開発の推進、患者第一主義の診療を実践して地域医療の中心的役割を果たすことにより人類の健康と福祉に貢献することを目指している。第2期中期目標期間においては、医学及び看護学の進歩に対応する能動的学習能力、問題探求・問題解決能力、そして、幅広い教養に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観、国際性を育み、地域社会に貢献できる医師・看護専門職を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、PBL（課題解決型学習）双方向ビジュアルコミュニケーションシステムにより、5年次生がチューターとして3、4年次生を指導する「屋根瓦方式」を導入するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

〔①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化〕

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学内の情報基盤の強化を図るため、情報担当職員を組織化し、「情報基盤センター」を設置したほか、部門毎に管理運営していた3つの情報システムを統合し、全学的な統合認証基盤を実現している。
- 学長直轄の広報室を設置し、情報の集約化、広報活動の強化を図っている。

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて**順調**に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

#### (2) 財務内容の改善に関する目標

〔①収支の改善、②資産の運用管理の改善〕

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 温室効果ガス排出抑制のための取組である国内クレジット制度（国内排出削減量認

証制度)を活用して、ESCO 事業(省エネルギーに関する包括的なサービス提供事業)により削減した CO<sub>2</sub> 排出削減量を国内クレジットとして電力会社に譲渡したことにより、約 365 万円の増収となっている。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

( ①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進 )

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

( ①施設設備の整備・活用等、②法令遵守 )

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 手術・処置等の手技のレベルアップのため、附属病院にシミュレーションセンターを新設し、学内の医師・学生のみならず、地域の医療従事者のスキルアップのため広く活用している。
- 近隣医療系専門学校からの要望に応じて、当該専門学校学生に対し、ライブラリーツアーや情報検索講習会を実施し、地域の医療情報教育支援を行っている。

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 学生が患者の個人情報記録されていた USB メモリーを紛失する事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 教育・研究等の機能強化及び事業の発展に向け滋賀医科大学と包括協定を締結し、教養部門で教員を相互に派遣し授業を実施できるように、互換性のあるカリキュラムの作成を目指すこととし、平成 24 年度は医師で弁護士でもある法学担当教授を非常勤講師として派遣している。
- がん薬物療法を専門とする医療人の養成を推進するため、医学部医学科に臨床腫瘍学講座を新設しているほか、がんフォーラムを開催し、最新情報の提供及び情報交換を行っている。
- 優れた研究を推進している研究者に対して、施設、設備等の重点的支援を行っており、その成果として質量分析を用いた新しいイメージング装置の開発や、生物を生きのまま電子顕微鏡下で観察する技術の開発に成功している。
- 東日本大震災における福島第一原発事故の影響でストレスにさらされることが多い福島県内の子供に対し、「心の教育プログラム」により、ストレスへの対処法を身に付けるための支援活動を継続的に実施している。

### **附属病院関係**

#### **(教育・研究面)**

- がん疼痛対策、せん妄等の標準的な緩和ケアの指導のため、緩和ケアチームによるがん診療関連部署の医師、看護師を対象とした勉強会を毎月実施し、特に内科、外科等のがん診療関連部署において、緩和ケアの指導内容の高度化及び質の向上が認められ、良好な緩和ケアが実施されている。
- 先進医療を推進し、先進医療 A の「神経変性疾患の遺伝子診断」、「急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的 PCR 法による骨髄微小残存病変 (MRD) 量の測定」や、先進医療 B の「蛍光膀胱鏡を用いた 5-アミノレブリン酸溶解液の経口投与又は経尿道投与による膀胱がんの光力学的診断 (筋層非浸潤性膀胱がん)」等が承認されている。

#### **(診療面)**

- 分娩症例及び新生児の入院患者数の増加により、卒前・卒後教育プログラムで学生全員が患者を診察することが可能となっており、またこれに対応するため、平成 25 年度から NICU を 6 床から 9 床へ増床している。
- 救急外来の充実のため、重症者用初期診療ベッドを 3 台から 5 台に増やしたことにより、複数の救急車が同時に到着した場合も、遅滞なく患者プライバシーが保護された初診室への搬入が可能となった。また、汚染傷病者の除染が可能なベッドも設けている。

#### **(運営面)**

- 精神科病棟の稼働状況が高いため、摂食障害の患者を外来でフォローアップできるよう、臨床心理士 (非常勤) 3 名を雇用して精神科デイ・ケア療法を開始し、在院日数を短縮するとともに、増収を図っている。